

おかげさまで、
2016年度、「りた」は設立10周年!

設立10周年を記念して、「りた」のロゴを刷新しました。



まちの多様性を育む「りた」を象徴した、あたらしいロゴを「りた」ともども、これからもよろしくお願いします。

これまでの10年を振り返り、これからの10年を考える、
設立10周年記念イベントも開催予定です。

日時: 2016年9月26日(月) 18:00~(予定)
場所: 岡崎市図書館交流プラザ・りぶら 301
内容: りたの10年と岡崎の未来(仮)

予定をあけておいてくださいね!

まちのミカタ

Litaracy —りたらしい—

81
2016年7月



特集

2015年度のりた

岡崎市は2030年まで人口増加が見込まれていますが、生産人口(15~64歳)はすでに減少に転じています。地域ごとに見ると、少子高齢化や人口減少が深刻な地域、新たに住宅・マンション開発により人口流入が進み新旧住民の交流が課題となる地域、空き家・空き店舗の増加や老朽化、買い物難民の増加など、状況や課題も様々です。徘徊する認知症高齢者情報のメールも連日のように目にするようになりました。

今後、社会課題は複雑化、深刻化していく一方で、税収は確実に減っていきます。私たちのまちが持続可能な地域社会を維持するために、岡崎市全体で「都市経

営]を考えていく必要があります。

ボランティアしたい人としてほしい人のマッチング、地域の宝物を見つけ、磨き、受け継ぐための気づきの場、高齢者が地域で元気に過ごせる場所や仕組みの検討、災害に対する実践的な知恵を身につける講座、山とまちの資源と課題を結びつける試み、これまであまり使われてこなかった公共空間や遊休不動産の有効活用…。

一つひとつはちっぽけでもすべては持続的な都市経営を見据えてつなげていく、そんな大きな課題意識に目覚め、動き出した1年となりました。

まちのミカタ

Litaracy

2016.7 vol.81

発行・編集

特定非営利活動法人
岡崎まち育てセンター・Lita

〒444-0072 岡崎市六供町字杉本78-1
TEL (0564)23-2888/FAX (0564)23-2898
<http://www.okazaki-lita.com>
<http://www.facebook.com/okazaki.lita>

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra/岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所/岡崎市各市民センター/シビックセンター/
FMおかげさき/杉くんの駄菓子屋/angelshare/
コミュニティ・ユース・バンクmomo/cafeくらがり/松應寺

数字で見る「りた」2015年度

※2016年3月末 集計

決算額(経常費用)

226,952 千円

岡崎市市制施行100周年記念関連事業受託や地域交流センター六ツ美分館・悠紀の里受託に伴い、「りた」全体の事業規模が前年比約1.5倍になりました。

従業員数

67 人

事業規模拡大に伴い、共に支え合う仲間が増えました。

ボランティア 募集件数 / マッチング数

82 件 **1,540** 人

「まちびとバンク」で1年間に地域交流センターと市民活動センターで受け付けたボランティア募集件数とマッチング数です。

ボランティア役務提供額(820円/h換算)

3,724,440 円

「りた」ボランティアの延べ活動時間数を賃金換算して可視化しました。2015年も非常に多くのボランティアさんに支えられました(延べ1,931名 4,542時間)。

地区防災計画策定

3 地区

矢作北学区、松本町、中之郷町の3地区において、他地区のモデルとなるような、防災計画を策定しました。

交流センター年間利用者数合計

431,697 人

1年間に地域交流センターをご利用いただいた人数を5館分合計すると、岡崎市の人口を上回る数になります。

「岡崎まちなものがたり」作成支援数

47 学区 **376** 頁

47小学校区でそれぞれの地区の魅力や歴史を伝える冊子を編集・発行する事業を2か年にわたって支援します。

「りた」の主要活動テーマ

景観

りたは、景観法に定められた「景観整備機構」として、岡崎市内に潜在する地域資源(風景、建物、工芸、ひとの営みなど)を市民自らが再発見ならびに再認識し、わがまち意識を育む。

該当事業 ▶▶ 岡崎百景選定事業、おかざき景観賞実行委員会ほか

防災

30年以内に70%の確率で起こるといわれている巨大地震に備えて地域防災力を高めるため、各地域の特性やニーズに応じた防災啓発事業を展開する。

該当事業 ▶▶ 防災イベント、防災講座ほか

福祉

まちの更新や少子高齢化に伴う福祉機能の低下に対して、社会福祉協議会、ボランティア連絡協議会、学区福祉委員会など既存の担い手の目的と役割の関係性を整理し、地域の様々な活動と結びつける「ファシリテーター」として、より多くの市民や団体が参加できる地域福祉の在り方を模索する。

該当事業 ▶▶ 老人クラブ交流会、世代間交流イベントほか

マッチング

様々な地域課題の解決に向けて、市民・市民団体、行政、事業者などの担い手が横断的に協働できるような、ヒトとヒト、活動と活動、モノとモノ、情報などのつなぎ役「協働コーディネーター」の育成とその体制づくりを行い、市民活動や地域活動の活性化を目指す。

該当事業 ▶▶ まちびとバンク/ものものバンク、地域活動交流会、まちフェス



●まち育ての専門家派遣

学校機関での講義や市内の先進事例の紹介、各種委員会や審議会への助言ならびに政策提言を行い、地域課題に対する複合的解決策の提示を推進しました。

●講師・コーディネーターなど

「観光基本計画アクションプラン」ワークショップ(岡崎市観光課) / 「歴史まちづくり座談会」(岡崎市都市計画課) / 「三河ものづくり学」講義(愛知産業大学) / 「井郷地域まちづくりシンポジウム」(豊田市) / 「空き家フォーラム」(国土交通省) / 「文化情報発信業務」事業企画

コーディネーター業務 / 「愛知県被災者支援センター」センター長業務 / あいちトリエンナーレ2016ローカルコーディネーター業務 / 「建築夜楽校」地方創生まちづくり | 空間と経済 パネリスト / 愛地球博記念公園マネジメント会議(愛知県) + 全国都市緑化フェアディレクター会議コーディネーター / 若園交流館活性化ワークショップ(豊田市文化振興財団) / 復興まちづくりにおける

●委員会・審議会など

岡崎市景観審議会 / 岡崎市総合計画審議会 / 岡崎市市民協働推進委員会 / NPOと行政の協働に関する実務者会議 / 岡崎市歴史まちづくり協議会

事務局他

組織運営や広報を担い、りたの活動をバックアップ

●まち育てインターンの受入

愛知県、名古屋学院大学から研修生14名を対象に、インターンプログラムを実施しました。「まちの学習機会」を提供し、受講者のまちづくりリテラシーを高めると同時に地域に役立つまちづくり実践の場を創出しました。また「りた」にとっては、受け入れ担当者が研修プログラムを組むことを通じて人材育成のマネジメントスキル向上の機会にもつながりました。

●りたスタッフ研修

今年度新たに入社したスタッフに対し、中間支援組織の一員としての業務に従事できるよう教育を実施。加えて、近隣他地域のNPOや市民活動センターの視察を行い、それを分析することにより、他のNPOに対しても適切なアドバイスができるよう教育しました。また、3ヶ月に1回、既存スタッフを対象とした「スタッフ交流会」を開催し、市民活動支援拠点の運営ノウハウの共有や改善に努めました。

●広報や業務改善にICTを積極活用



膨大な管理業務を合理化するため、オンライン勤怠管理システムやグループウェア、CRMを導入。また拠点間での情報共有をスムーズにするため、「りた」専用サーバーにクラウドファイル共有システムを構築しました。また、広報強化のために独自のシステムを開発し、業務の「攻め」と「守り」にICTを柔軟に取り入れています。

●市民活動に関する情報受発信の仕組み構築事業



「岡崎における市民活動情報の仕組みのあり方」について検討を重ね、他の中間支援組織、システム提供者と共同で開発したシステムを「地域交流センター公式サイト」と「新世紀岡崎チャレンジ100プロジェクト紹介サイト」で運用を開始しました。

●りた機関誌「りたらしい」の発行



「りたの見える化」を目標に、各部門の事業内容と成果の報告を中心に行いました。また、今年度は「おとがわプロジェクト」と「まち育てスクール」をおもに特集しました。

まち育て推進チーム 市民活動支援チーム

対話の場づくりを中心に、市民が主体的にまちの課題解決や魅力創出・伝承に関わっている仕組みづくりを支援しました。

2015年度の成果

2016年に市政施行100周年を迎える岡崎市では、その節目を祝う記念事業が2015年度から多数始動しています。

「りた」もその中の3つの事業「岡崎百景選定」、「岡崎まちものがたり作成事業」、「新世紀岡崎チャレンジ100」を受託し、これらを市民の方と盛り上げ、各事業を一過性のものでなく、継続的に価値を創出し、より意義あるものとなるよう、努めました。

また、リバーフロント地区まちづくりデザインやリノベーションまちづくりにおいては、河川の活用から中心市街地の活性化・動線の引き込みまで、別事業ではありながら、地域の課題から都市の課題へ、都市の課題から市全体の課題へより大きな視点で課題や価値をとらえ、解決していく道筋を検討していきました。

2015年度の事業(抜粋)



景観

●リバーフロント地区 まちづくりデザイン

5か年で進められる乙川リバーフロント地区の開発事業に対して、官民連携まちづくりを促進するための仕組みづくりをしました。



マッチング

●リノベーション まちづくり推進

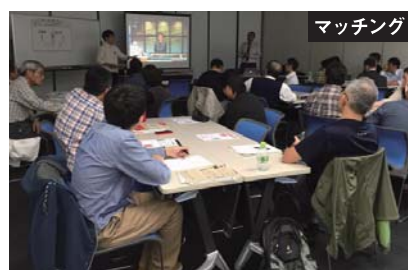
老朽化、空洞化した民間の有休不動産などを活用し、まちの魅力づくりと課題の複合的解決を目指しました。



景観

●岡崎百景選定

市制施行100周年の節目に新時代に継承すべき100の景観を選定するために市民参加の推薦人会議やお披露目会を行いました。



マッチング

●ソーシャルデザイン活用啓発

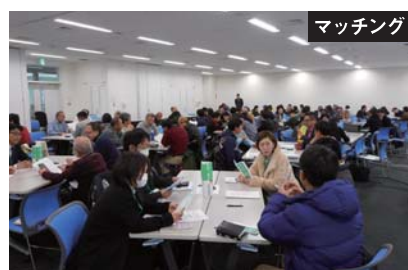
地域経済振興として、ソーシャルデザインを活用するための支援プログラムを実施しました。



景観

●岡崎まちものがたり作成支援

47小学校区ごとにまちの歴史や魅力を発掘、紹介する冊子編集の支援を行いました。



マッチング

●チャレンジ 100事務局

市制100周年記念事業として実施される市民公募事業の事務局を担いました。



防災

●地区防災計画 策定支援

防災に対する住民意識の高揚と自主防災組織の活動活性化を目的としてワークショップやセミナーを開催しました。

トピックスで見る「りた」2015年度



地域交流センターの 第3期指定管理者に決まる

関連ワード なごみん、よりなん、やはざかん、むらさきかん、悠紀の里

2016年4月から5年間、市内5カ所にある地域交流センターの指定管理者として「りた」が選ばれました。



NPO交流会を定期開催

関連ワード マッチングフェアin第5回岡崎まち育てフェスタ、市民活動センター

市内のNPOを中心に定期的な交流会を開催し始めました。情報交換の中から、マッチングフェア開催につながりました。



地域交流センター 公式サイトリニューアル

関連ワード なごみん、よりなん、やはざかん、むらさきかん、悠紀の里、市民活動センター

より積極的な情報発信のため、地域交流センターの公式サイトをリニューアルしました。



5か年で行われる「おとがわプロジェクト」が始動

関連ワード まち育て推進チーム、おとがわプロジェクト、リバーフロント地区まちづくりデザイン

官民が密に連携し、乙川の水辺空間の整備・活用を総合的に行っていく5か年のプロジェクトが始動しました。中心市街地の活性化、さらには将来の人口構造も踏まえた観光産業都市の創造を目指します。

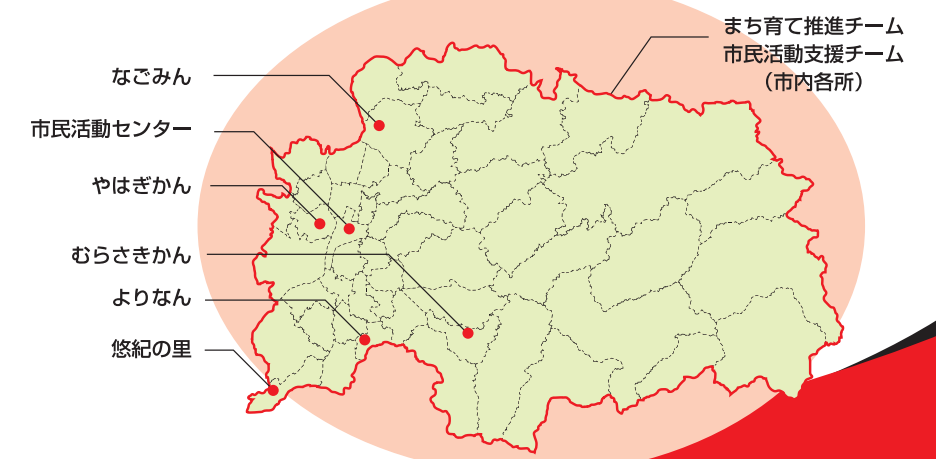


協働の担い手育成を目指し、「まち育てスクール」を開講

関連ワード なごみん、よりなん、やはざかん、むらさきかん、悠紀の里、市民活動センター

地域交流センター、市民活動センター合同で、協働の担い手育成のためのスクールを計6回開催しました。

「りた」の主要活動エリア



なごみん

昔ながらの「結」の精神が息づく岡崎市北部地域で、利用者を支え、利用者を支えられるセンター運営が実現できています。

4つの事業方針から見た成果

1. 公益活動の場づくり

「なごみんフェスタ」や「北部地域活動報告交流会」では、活動団体が日頃の公益活動の内容や成果を市民に発信する機会を提供できたと同時に団体同士が交流し情報交換を行う場を提供できました。「なごみんカレッジ」では、公益活動の機会や地域とのつながりを求めている団体に講師を担ってもらうことで、講師側にも活動促進につながるよい機会を提供できました。

3. 学校融合人づくり

「なごみん横丁」では多くの高校生、大学生がボランティアとして協力してくれました。子どもたちとともにイベントをつくるという学校では得られない経験を通して、学生にとってよい学びの場となっています。また「なごみんカレッジ～手話講座～」では、岡崎聾学校の生徒が講師となり、市民に手話を教えてくれました。大人に手話を教える機会も、地域に出ていく機会も少ない聾学校の生徒に自らの視野を広げる機会を提供することができました。

2. ボランティアの受け皿づくり

「なごみん横丁」では、多くの学生がボランティアで参画し、なごみんのマネジメントのもと、自由に考え行動することで、ボランティア意欲の向上につながられました。「花咲ボランティア」では、活動室利用者にも声掛けをしたことによって、利用時間の前に花壇の手入れをしてくれる方が増えるなど、ボランティアのよい受け皿となっています。「情報誌なごみん発行事業」でも、印刷・封入作業で継続的な関係ができています。また、ボランティア参加者が友人を誘ったり、他のなごみんの自主事業にも関わってくれるなど、よい関係が構築できています。

4. 学区まちづくり

「僕のまち私のまち魅力展」では、北部地域で活躍する個人や団体、魅力的な地域資源の情報を市民に発信することでまちへの愛着心の向上を図りました。「岩津ゼミパネル展」では、岩津地域の活性化を目的とした「岩津ゼミ」の支援として、講座紹介のパネルを作成し、館内に掲示したことで、なごみんや支所に来館する多くの市民に情報を発信し、参加につながりました。

2015年度の事業(抜粋)



●なごみん横丁
子どもたちだけで仮想都市を運営し、まちづくりを学ぶイベントです。なごみんの夏の風物詩になっています。



●なごみんフェスタ
なごみんを利用している活動団体に、成果発表と市民との交流の場を提供しました。



●なごみんカレッジ
活動団体や聾学校の生徒を教師に招き、市民ニーズを解決する講座を開催しました。



●まち育てスクール「歴史と協働」
岩津にある地域資源の価値をあらためて確認し、「協働」によって守り遺していく重要性を参加者と学びました。



●花咲ボランティア
なごみんのボランティアマネジメントのもと、ガーデンボランティアによる花壇整備・管理が実現しています。



●なごみん防災講座～家での避難に生活に必要なアレコレ～
地域防災力の向上をめざし、自宅での避難生活という切り口で講座を実施しました。

市民活動センター

公益活動、市民活動支援から見てきた協働ニーズを形にした一年でした。

2015年度の成果

2015年度は日頃の団体との関わりの中から見えてきた「協働」ニーズを形にした一年でした。

地域交流センターと市民活動センターが連携し「市民団体が行政や他団体と協働事業を企画実行し学習機会を企画し、実施した「まち育てスクール」がその一つです。2014年度実施した「NPOフォーラムin第4回岡崎まち育てフェスタ」で共有された中間支援者である「りた」に求める役割として「①市民団体の課題意識を集約して社会的にアピールする機会(賛同者とのマッチング)を用意することや、②NPOと行政の協働事業の推進役となる」などが挙げられたことを受け、今年度全6回に及び講座を企画・実施しました。

また、「マッチングフェアin第5回岡崎まち育てフェスタ」も、「りた」が毎月開催している市内のNPOを中心とした交流会から「協働相手と繋がるための機会が欲しい」という要望を受け、NPO有志で実行委員会を組織し、企画・実施したものであり、多くのマッ

チング実績を残すことができました。

さらに、「りた」内部で公益活動ワーキンググループ(以降WGという)を発足させ、日々市民活動団体支援や団体登録の実務を担う中で見えてきた課題、市民活動に求められる公益活動の在り方などについて協議しました。また、市民活動団体登録制度の承認機関である文化活動推進課と一次審査機関である市民活動センター(およびWG)とで協議する場を設け、岡崎市として求める市民活動団体の登録制度・育成・支援の在り方について模索し始めました。

市民活動センター並びに地域交流センターが「協働コーディネーター」としての期待が高まる中で、2016年度も、その役割を果たせるようにスタッフの専門性を高めることはもとより、体制の強化や利用者ニーズに即した支援メニューの開発などを行っていきます。また、我々自身も行政の協働先として提言・提案も含め行い、市内の市民活動活性化に貢献していく所存です。

2015年度の事業(抜粋)



●まちびとバンク
公益活動促進のためにボランティアをしたい人と探している団体を多数マッチングしました。



●マッチングフェアin岡崎まち育てフェスタ
活動団体が協働相手を見つけるためのマッチングフェアを開催しました。



●ものものバンク
不用品を提供いただき、必要としている団体にマッチングすることで「モノ」の側面から公益活動支援を行いました。



●NPO活動のための助成金申請セミナー
活動を継続していくために必要な組織運営のコツや助成金申請のヒントをお伝えしました。



●まち育てスクール 夢が叶うかもカフェ
協働の担い手を育成するべく、協働に必要な「共感」をテーマとした講演とサロンを実施。



●公益活動支援
公益活動に関する様々な相談対応や、岡崎市の市民活動団体登録の申請相談・受付対応などを行いました。

悠紀の里

「六ツ美悠紀斎田保存会」と協働し、地域文化「悠紀斎田」の伝承から、さらに新しい地域の取り組みへと広がっていきます。

4つの事業方針から見た成果

1. 公益活動の場づくり

「市民活動情報ひろば活用講座」において、インターネットでの活動・広報展開があまりなされていない団体に対し、マンツーマンで『おかざき市民活動情報ひろば』の活用方法講座を行い、団体からの活動を促しました。また、「フレンドリーフェスタ in 悠紀」において、公益的な活動を多くの人に向けて発表する場を設けることで、市民の公益活動への参加を促しました。

2. ボランティアの受け皿づくり

「ゆきサロン」において、読み聞かせや手遊びなどを来館者に向けて行うボランティアを募り、17団体43名の参加を得ました。また、「フレンドリーフェスタ in 悠紀」においては、出演者から参加などを含む、38名のボランティア参加がありました。

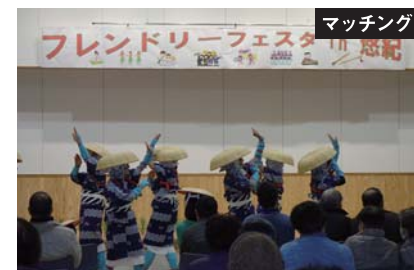
3. 学校融合人づくり

「フレンドリーフェスタ in 悠紀」において、六ツ美中学校・六ツ美南部小学校にご参加いただき、イベントを通じて多くの参加団体と触れ合うことで、今後の公益活動・協働の礎作りができました。

4. 学区まちづくり

「悠紀の里まつり」において、六ツ美南部ならではの資源『悠紀斎田』でのお田植えの儀式と協力し、『六ツ美悠紀斎田保存会』と協働して一般参加型の催しを企画し、悠紀の里利用者・地縁者などの参加を得て、これまでになかった地域の取り組みとしました。

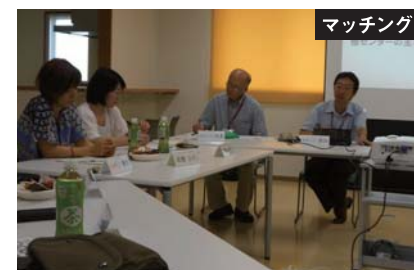
2015年度の事業(抜粋)



マッチング
●フレンドリーフェスタ in 悠紀
市民活動の啓発促進として、主に悠紀の里利用団体の活動発表の場を提供しました。



景観
●悠紀の里まつり
地域の魅力発信イベントを斎田の収穫と同日に開催し、地域への愛着形成と地縁組織との関係づくりを目指しました。



マッチング
●ボランティア車座集会
公益活動を行う個人や団体を対象に、ボランティアに関する知識習得と意識向上につながる機会を提供しました。



マッチング
●まち育てスクール「協働はこうして起こせ」
協働の担い手を育成すべく、協働を実際に起こす際のノウハウをお伝えしました。



景観
●六ツ美百景撮影会
六ツ美地域の魅力再発見のため、市民の方から地域の名所や想い出の場所の写真を提供いただき展示しました。



マッチング
●情報誌発行
六ツ美地域や施設利用団体のPRにつながる情報の収集および発信を行いました。

よりなん

顔の見える関係づくりを基軸に、地域防災力強化や健康寿命の増進などの地域課題解決に取り組んでいます。

4つの事業方針から見た成果

1. 公益活動の場づくり

「よりなん感謝祭」では、各団体の日頃の活動を来館者に知ってもらうとともに、日頃の活動を振り返りながら今後の活動への意識を高める機会を創出することができました。また、「よりなんクリスマス会」では、民生委員中心の団体と合同開催を行うと同時に、大学生にも出演してもらい、企画や準備および当日の運営を協働して行うことで、公益活動の機会を拡幅することができました。

2. ボランティアの受け皿づくり

よりなん主催事業においては、ほぼすべての事業でボランティア募集を行い、年間341名もの協力を得られました。特に「よりなん感謝祭」では、出演団体からの多くの運営ボランティアや、中学生の司会ボランティアにも活躍してもらうことができ、活動団体や学校とともに運営することで市民参画の啓発にもつながりました。「昔のあそび体験フェスタ」では、地元老人クラブと近隣の高校生による「あそびの先生」のボランティアに活躍してもらい、世代間の交流を促進させることができました。

3. 学校融合人づくり

「防災フェア」では、竜南中学の防災への取り組みを紹介するとともに、中学生の参加もあり、地域防災への意識啓発に協力してもらうことができました。「昔のあそび体験フェスタ」では、岡崎工業高校・岡崎商業高校・光ヶ丘女子高校の生徒に「あそびの先生」を担ってもらうことで、地域貢献の意識啓発の場を創出することができました。また、上地小学校を通じて小学生のブース出店を募り、5つのグループからの応募を受け入れることで、子どもが参加者ではなく出店者の立場で活躍できる機会を提供しました。

4. 学区まちづくり

「防災フェア」では6つの町内会の総代とともに取組むことで『地域防災』の地域課題を共有し、「昔のあそび体験フェスタ」では地元老人クラブに協力してもらうことで『地域内での密な関係づくり』の必要性の認識を促すことができました。また、「上地区区ふれあい親子夏祭り」では、学区が中心となった実行委員会への出席や事前準備および当日運営に協力することで、地縁団体との関係を深め、『地元行事の継続』を支援することができました。

2015年度の事業(抜粋)



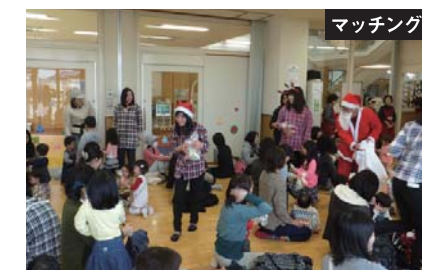
防災
●防災フェア
上地区内の複数の区と合同開催し、防災について考え、体験する機会を提供することで地域の防災意識向上に努めました。



マッチング
●よりなん感謝祭
活動団体にステージ発表や展示・体験・販売を行っていただき、活動をPRしてもらうことで公益活動を促進しました。



マッチング
●夏休み昔のあそび体験フェスタ
昔のあそびを通して地域団体や地元高校生とともに世代間交流を促し、顔の見える地域づくりに貢献しました。



マッチング
●よりなんクリスマス会
民生委員中心の子育て団体と岡崎女子大学の学生とともに未就学児とその保護者を対象としたクリスマス会を開催しました。



マッチング
●上地区区親子夏祭りへの参加
ボランティアが作製した手作りかざぐるまを携え地域団体主催の夏祭りに出店することで、ものづくりによる地域貢献の機会を創出しました。



福祉
●上地区区老人クラブ交流会
老人クラブ連合会からの活動報告と、スギ薬局関係者や活動団体による健康講座を実施しました。

やはぎかん

世代間交流、団体間交流を通じて地域の文化伝承、課題解決、担い手育成を目指しました。

4つの事業方針から見た成果

1. 公益活動の場づくり

「8周年春まつり」では、参加団体と共に実行委員会を3回開催し、参加団体と協働してイベント計画を策定する中で参加団体の自主性を引き上げることができました。各団体の活動を紹介するPRチラシの冊子を製作し配布することで、参加団体とイベント来場者双方に公益活動を広く伝えることができました。「避難訓練コンサート」では、公益活動である避難訓練と防災体験をオーケストラのコンサートと同時に開催することで、防災に対する意識づけを効果的に実施できました。

3. 学校融合人づくり

小学校にはギャラリーでの学習成果や部活動の成果発表、中学校には職場体験や事業運営ボランティア、部活動の成果発表(防災学び合い交流会)、高校には花のとう実行委員会における協働や事業実施時の協力(子どもの街など)、多様な連携の形を模索しながら協働することができました。これらの活動を通じ、未来のまちづくりの担い手育成をしました。

2. ボランティアの受け皿づくり

各種イベントにおいて、ボランティアの多様な活動の場所を創出しました。前年度と比べて、主催事業の運営ボランティアの人数および参加時間数は大幅に増加し(運営ボラ: 195人、385H→314人、780H)、出演ボランティアの人数と参加時間数は前年と同程度(出演ボラ: 960人、872.5H→895人、868.5H)となりました。多様な活動を通じて、ボランティアの受け皿としての機能を拡充することができました。引き続き、継続的・自主的に施設運営に携わるやはぎかんサポーターの育成、および、気軽に参加できるボランティア機会を創出します。

4. 学区まちづくり

「防災学び合い交流会」では、矢作地域の土地の特性とリスクを知り、事前にできること、災害時にすべきことを学び、地域住民、地域団体、市民団体の連携関係の強化と地域防災力の向上を図りました。「花のとう協賛イベント」では、地元商店街、城西高校ほか教育機関等からなる実行委員会と協働し、出演団体に地域の魅力を発信する公益的役割を果たしてもらうことができました。

むらさきかん

地域にある多様な主体と連携し、共に東部地域を盛り上げていけるよう、交流や情報交換を行っています。

4つの事業方針から見た成果

1. 公益活動の場づくり

定期的にご利用していただく市民活動団体が増えたことで、館内の市民活動団体のパネル掲示も充実し、「むらさきかん情報誌」でも団体を積極的にPRすることができました。こうした取り組みを通じて、公益活動は市民にとって身近なものであるという雰囲気館内に生み出すことができきています。また、「むらさきかんフェスタ」では、市民活動団体の活動PRの場として、多くの市民の方に各団体の取り組みを知ってもらう機会を創出しました。市民の皆さんにとっても公益活動の啓発につながる機会となっています。

3. 学校融合人づくり

「むらさき麦まつり」において、地元藤川の小学校児童や愛産大学生、学泉短大学生にお手伝いいただきました。ひとつのイベントを作り上げる過程で、地域への愛着を育み、そこで自分たちが何を活かすことができるかを考える機会を作ることができました。また、「東部地域活動報告交流会」では、地元の中学や高校、大学生が活動の発表を行うなど、学校の取り組み成果を地域の方々に発表する機会を設けることができました。

2. ボランティアの受け皿づくり

ミニコンサートや読み聞かせを行うボランティアを募る「ふれあいひろば」を、年間30回以上開催しました。こうした取り組みの中から、それぞれの特技や活動への思いをセンター側が把握することで、「むらさきかんフェスタ」などのイベントに出演してもらうなど、潜在していた活動をより多くの市民に知ってもらう機会を設けることができました。また、「まちびとバンク」で募集してきた「むらさきかん飾りつけ」において、定期的にボランティアとして関わっていただける方が出てきました。

4. 学区まちづくり

「むらさき麦まつり」では、道の駅や大学、小学校と連携し、地元特産のむらさき麦や街道の町家のPRを通じたまちおこしの一端を担い、藤川まちづくり協議会の活動そのものをより多くの市民に知ってもらう機会の提供ができました。一方、「東部地域活動報告交流会」は、岡崎市東部地域で地域と連携して活動している学校に参加いただき、その活動を互いに発表し、地域や団体相互の情報交換と交流、連携のきっかけづくりを行いました。

2015年度の事業(抜粋)



防災

●防災学び合い交流会

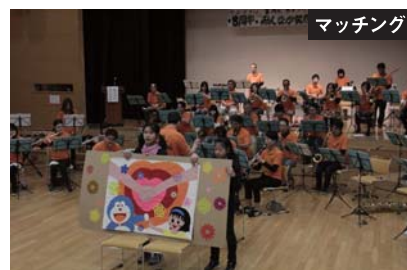
地震が原因の火災から身を守る術や、被災者の体験談を聞くなど、防災について学びきっかけを提供しました。



防災

●避難訓練コンサート

やはぎかんホールでコンサート中に発災した想定での避難訓練や防災体験イベントを行いました。



マッチング

●8周年春まつり

参加団体にイベントの企画から運営まで携わっていただき、協働作業を通して団体間の交流や来場者との交流を促しました。



マッチング

●やはぎかん子どもの街

近隣の学校、活動団体、地域団体と協力し、開催しました。あそびを通して世代間、団体間交流を促しました。



景観

●花のとう協賛イベント

矢作の伝統行事「花のとう」に協賛し、地域文化・風習の伝承や、地域の魅力発見を通じた愛着形成を促しました。



マッチング

●まち育てスクール「その時、協働が起こった」

協働の担い手を育成すべく、協働の成功事例とそのポイントをお伝えしました。

2015年度の事業(抜粋)



景観

●むらさき麦まつり

藤川宿とむらさき麦のPRにつながるよう、ウォークラリーや藤川小児童によるガイドを開催しました。



マッチング

●東部地域活動報告交流会

東部地域に位置する学校のクラブ活動や生徒会の活動報告を行い、積極的な意見交換を行いました。



景観・福祉

●藤川・竜谷支援事業

藤川では米屋やむらさき麦の活用支援、竜谷では福祉団体のケア会議などに参加しサポートしました。



マッチング

●むらさきかんフェスタ

むらさきかん全館を使い、主にむらさきかん利用団体の日頃の活動発表と、市民との交流の場を提供しました。



福祉

●まち育てスクール「福祉と協働」

市民活動の視点でどう福祉の充実を図るか学び合いました。



マッチング

●情報誌発行

活動団体の紹介や東部地域の魅力を掲載した情報誌を月1回発行しました。